

GRI は、全世界で適用できる持続可能性報告書の枠組みの作成にあたって、長期的な取り組みとなることを認識しています。財務報告だけを例にとってみても、半世紀以上経った現在も世間の関心を集め、再検討を重ねるなど進化を続けています。2002年版ガイドラインは、報告書の枠組みの合意形成に関する現時点の GRI 理事会の考え方を反映し、多様な視点により構成されています。

本書では 2002 年版ガイドラインの様々な活用方法をご紹介します。単に社内の参考資料として利用することもできれば、既存の報告書にどんな要素を付加すればいいのかというヒントとして利用することもできます。あるいは、より忠実にガイドラインに「準拠する」かたちで利用することもできます。準拠する場合は、報告における柔軟性と、複数の報告組織間の比較分析を両立させるために、準拠したという事実の透明性が不可欠な要素となります。GRI は、ガイドライン使用の初心者、熟練者にかかわらず、すべての報告組織をこのガイドラインの利用者として歓迎します。

2002 年版ガイドラインの発行にともなって、持続可能性報告書の改訂も新たな転機を迎えます。GRI 理事会では、2004 年版の改訂版の発行に向け、2002 年版ガイドラインのさらなる改訂作業を、明瞭かつ詳細にわたる正式な作業プロセスで進める計画をしています。これから 2 年間にわたり、この改訂プロセスでは、ガイドラインのあらゆる側面に対しての幅広い協議がなされるでしょう。私たち GRI 理事会は、持続可能性報告書のさらなる発展に向け、GRI の主要ガイドライン、業種別補足文書、測定規定などの作成のプロセスに、試行やワーキンググループへの参加および GRI 組織との交流などを通して、すべての関係組織が参加されることを奨励し歓迎します。

GRI 理事長

ジュディー・ヘンダーソン博士